

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成21年10月8日(2009.10.8)

【公開番号】特開2008-57923(P2008-57923A)

【公開日】平成20年3月13日(2008.3.13)

【年通号数】公開・登録公報2008-010

【出願番号】特願2006-237921(P2006-237921)

【国際特許分類】

F 2 4 F 13/28 (2006.01)

【F I】

F 2 4 F 1/00 3 7 1 A

【手続補正書】

【提出日】平成21年8月26日(2009.8.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

駆動手段で回転駆動されると共に、空気調和機に内蔵されたエアフィルターに付着した塵埃を掻き取る回転清掃体と、前記回転清掃体で掻き取られた塵埃を収納する集塵ボックスと、前記集塵ボックスに収納された前記塵埃を前記集塵ボックス内で移送する塵埃移送手段とを備えた空気調和機用清掃装置。

【請求項 2】

回転清掃体は、集塵ボックス内に着脱自在に収納されると共に、前記集塵ボックスを空気調和機に着脱自在とした請求項1に記載の空気調和機用清掃装置。

【請求項 3】

集塵ボックスに塵埃排出用の塵埃排出口を設け、前記塵埃排出口を塞ぐ蓋体を着脱自在または / 及び開閉自在に設けた請求項1又は2に記載の空気調和機用清掃装置。

【請求項 4】

集塵ボックスに塵埃排出用の塵埃排出口を設け、前記塵埃排出口を塞ぐ蓋体を開閉自在に設けると共に、少なくとも前記蓋体の開動作と、塵埃移送手段が塵埃を前記集塵ボックス内で移送する動作とを連動させた請求項1又は2に記載の空気調和機用清掃装置。

【請求項 5】

回転清掃体に付着した塵埃を除去する塵埃除去手段を設けた請求項1～4のいずれか1項に記載の空気調和機用清掃装置。

【請求項 6】

回転清掃体を、棒状の軸体と、前記軸体に螺旋状に巻き付けられると共に基布と前記基布に植毛されたブラシ部からなる起毛布とで構成した請求項1～5のいずれか1項に記載の空気調和機用清掃装置。

【請求項 7】

軸体に巻きつけられた起毛布の全幅寸法（有効清掃幅寸法）を500mm以上とした請求項6に記載の空気調和機用清掃装置。

【請求項 8】

塵埃移送手段を、指で操作するためのつまみと、前記つまみに連結され、集塵ボックス内で移動する移送板とで構成し、前記移送板の周縁に、前記集塵ボックスの内壁を清掃する清掃片を設けた請求項1～7のいずれか1項に記載の空気調和機用清掃装置。

【請求項 9】

空気調和機用清掃装置の内部や外部に付着した塵埃を払うための手入れ用のハケと、前記ハケを着脱自在に保持するハケ保持部を備えた請求項 1～8 のいずれか 1 項に記載の空気調和機用清掃装置。

【請求項 10】

熱交換器と、前記熱交換器の上流側に配され流入する空気に含まれる塵埃を捕獲するエアフィルターと、請求項 1～9 のいずれか 1 項に記載の空気調和機用清掃装置を備えた空気調和機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

第 4 の発明は、特に、第 1 又は第 2 の発明の集塵ボックスに塵埃排出用の塵埃排出口を設け、前記塵埃排出口を塞ぐ蓋体を開閉自在に設けると共に、少なくとも前記蓋体の開動作と、塵埃移送手段が塵埃を前記集塵ボックス内で移送する動作とを連動させたもので、集塵ボックス内に堆積した塵埃を、塵埃移送手段で、塵埃排出口まで移送すると、その間に塵埃が圧縮されるが、その移送動作に連動して蓋体が開放するようにすれば、一つの移送動作で、塵埃を一箇所の塵埃排出口から排出できると共に、塵埃が圧縮されているので、廃棄時に、塵埃が周囲に飛び散ることが無く、衛生的である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

第 9 発明は、特に、第 1～8 のいずれか一つの発明の空気調和機用清掃装置に、空気調和機用清掃装置の内部や外部に付着した塵埃を払うための手入れ用のハケと、前記ハケを着脱自在に保持するハケ保持部を備えたもので、塵埃を廃棄する都度、回転清掃体や、集塵ボックスをハケできれいにすることができると共に、そのハケの保管が容易で、しかもその保管場所を忘れることも無いので非常に使用勝手の良いものである。